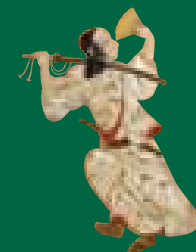
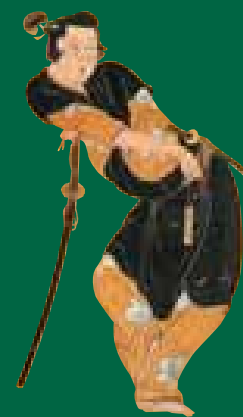


武将観光パンフレット

物語の舞台をゆく 信長・秀吉・家康のふるさと愛知



Go to the Samurai's historical stage.



物語の舞台をゆく

信長、秀吉、家康の ふるさと愛知。

愛知県（尾張・三河）は歴史、特に戦国時代史の宝庫である。天下取りの三英傑といわれる織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が三人ともこの地の出身だったことで、その家臣として活躍する武将が多数輩出した。まさに、愛知は武将のふるさとであった。

その愛知には、武将たちゆかりの城館跡や古戦場もたくさん残っている。小さな箱庭のような公園になつているところもあれば、実際の戦いぶりを彷彿とさせるような古戦場もあり、また、そうした武将たちにまつわるまつりも伝承されている。

戦国時代史はまだ謎だらけである。そうした武将たちの物語の舞台を実際に歩くことで、謎解きに挑戦し、新たな発見をするのも楽しい。戦国ドラマのほとんどは愛知から始まる。

小和田哲男（静岡大学名誉教授）



徳川家康



豊臣秀吉



織田信長



和暦	西暦	織田信長	豊臣秀吉	徳川家康
天文3	一五三四	織田信秀の三男として勝幡城・那古野城で誕生。幼名・吉法師。幼少期に那古野城主となる。	弥右衛門の子として愛知郡中津古早町で誕生。幼名・日吉丸。	
天文6	一五三七			
天文11	一五四二			
天文15	一五四六			
天文16	一五四七	三河・吉良に初陣。		
天文17	一五四八	父・信秀の城・古渡城にて元服。		
天文18	一四九一	結婚。		
天文20	一五五一	父・信秀死去。家督を継ぐ。	永楽銭買文をもちて遠州へ。松下加兵衛に奉公。	
天文21	一五五二	赤松・戦い・山口教経(教古)・豊津の戦い(坂井大膳)。		
天文22	一五五三	平手政秀・信長の素行を試め目録／安食の戦い(織田・彦五郎)・斎藤道三と聖徳寺にて会見。		
天文23	一五五四	村木城攻略。今川氏／清須城攻略。織田彦五郎。清須に入城。	尾張に帰。信長に仕える。	
弘治元年	一五五五	守山城包囲(織田信次の家臣)。		
弘治2	一五五六	林秀雄の戦い(柴田勝家)。		
弘治3	一五五七	弟・信行が背いたため清須城に誘い殺害。		
永禄元年	一五五八	品野城攻撃(松平家公・浮野の戦い(織田信賢)。		
永禄2	一五五九	岩倉城攻略(織田信賢)／將軍・足利義輝に謁見。厚遇を統一。		
永禄3	一五六〇	古良方面出兵(今川氏)／相模川の戦い(今川義元)／美濃侵略(斎藤義隆)。		
永禄4	一五六一	梅坪・伊保城攻撃(三宅師昌)／半母城攻略(中津氏)／森部の戦い(斎藤義隆)／十四条の戦い(斎藤義隆)／稲葉山攻撃(斎藤義隆)。	浅野長勝の養女おねを娶る。	
永禄5	一五六二	小口城攻撃(織田信賢)／清須城で松平元康(家康)と会話し同盟を結ぶ(清須同盟)。		
永禄6	一五六三	新加納の戦い(斎藤義隆)／信長の娘(五徳)と元康の嫡男(信康)の婚姻が成立／居城を小牧城に移し、吉乃の御殿も建てる。		
永禄8	一五六五	犬山城攻略(織田信賢)／宇留摩・猿塚城攻略(今川氏・多治見氏)／堂洞城攻略(多治見氏)。		
永禄9	一五六六	河野島の戦い(斎藤義隆)。	墨俣城築城。	
永禄10	一五六七	長島・向坂攻撃(桶氏)／稲葉山攻略し、斎藤龍興を追放。岐阜と地名を改める。		
永禄11	一五六八	浅井長政と同盟、お市の方が嫁ぐ／足利義昭を擁して上洛。		
天正元年	一五七三	浅井朝倉を攻め滅ぼす。長篠の戦いで武田勝頼を破る。	この頃、羽柴を称す。	
天正3	一五七五	安土城を築城。		
天正4	一五七六	家康に嫡男・信康の自害を要求。		
天正7	一五七九	天目山麓で武田勝頼を滅ぼす。本能寺で明智光秀に攻められ自害。	山崎の合戦で明智光秀を破る。	
天正10	一五八二			
天正12	一五八四			
天正13	一五八五			
天正14	一五八六			
天正18	一五九〇			
慶長3	一五九八			
慶長5	一六〇〇			
慶長8	一六〇三			
慶長10	一六〇五			
慶長15	一六一〇			
慶長16	一六一一			
慶長19	一六一四			
慶長20	一六一五			
元和2	一六一六			

名古屋

中世を破壊し、近世の扉を開いた男。

織田信長、誕生

天文3年(1534)

天文三年(一五三四)五月十二日、尾張の那古野城※で不世出の天才児が誕生した。幼名を吉法師、後の織田信長である。この日、濃尾平野は梅雨の曇天におおわれ、風さえ激しく吹き荒れて、波乱に満ちた彼の生涯を暗示するかのようだったという。生まれながらに癪癖の強い子だった。

安部龍太郎『信長街道』新潮社より



那古野城址の碑

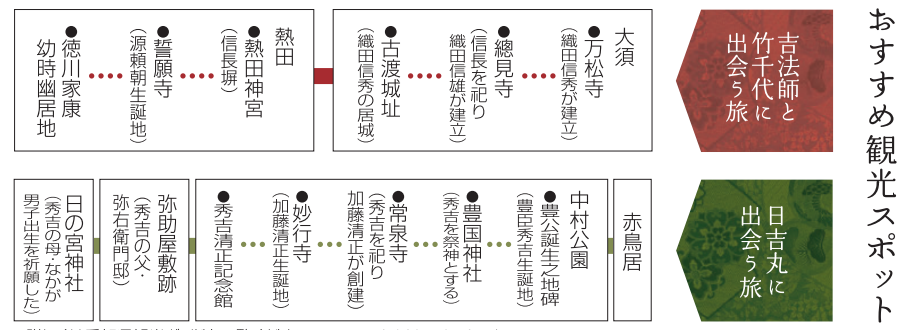
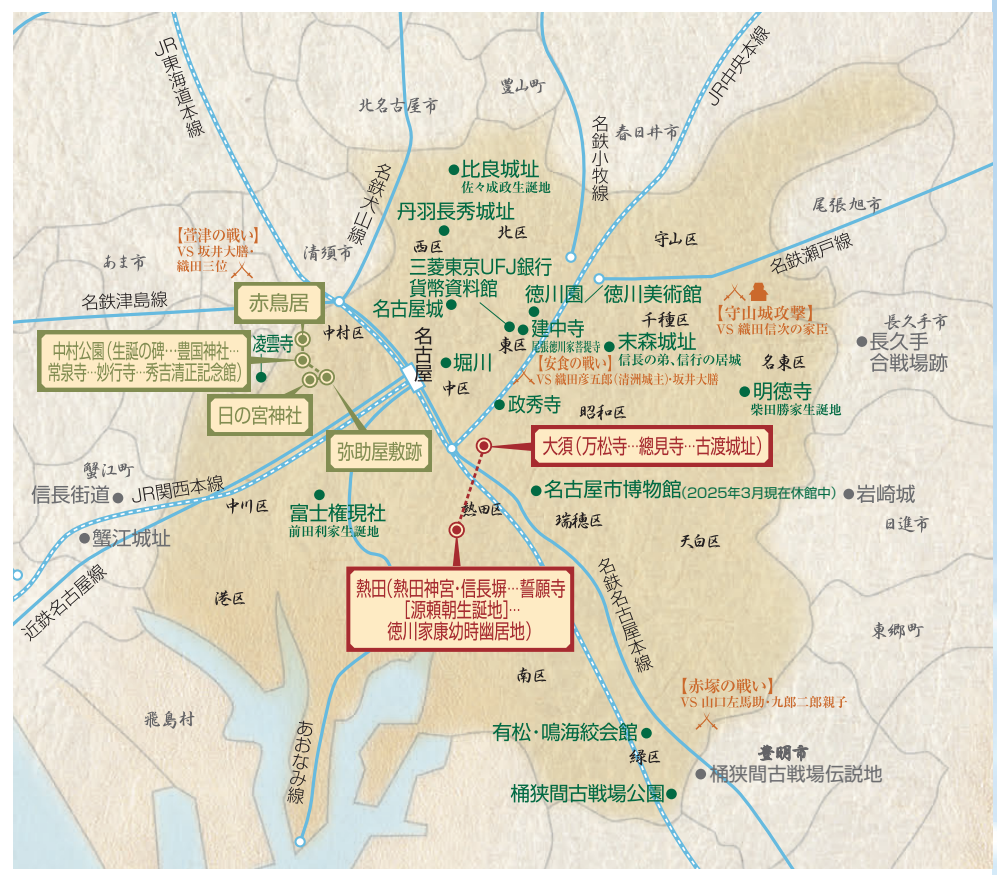
信長14歳、秀吉11歳、家康6歳。460年前、3人の天下人が名古屋にいた。

エリソン、ガリレオ、ニュートン…。世の天才たちと同じように、信長もまた、異端児であった。奇抜な服装で町を歩き、突飛な行動で人を驚かせ、手習いに通った凌雲寺では劣等生の烙印を押された。そんな彼を人々は「つけ者」と呼んだが、父・信秀だけは、その資質を見抜いていたといわれる。それだけに、父を失った悲しみは、あまりにも大きく、彼を奇行に走らせたのだろう。

信長は生後まもなく那古野城主となり20歳まで名古屋で暮らす。4歳の時に中村(中村公園)で日吉丸(秀吉)が誕生し、14歳の時に竹千代(家康)が織田家の人質として熱田に幽閉される。信長が日々馬を駆けた遊び場である。日吉丸も竹千代も「つけの吉法師」を見たに違いない。



信長初陣の図／講談社・山岡荘八「織田信長」より



●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

Nagoya



“つけ者”と呼ばれ、家臣や家族からも疎まれた信長。やがて彼が天下を平定することを、誰が予想したことだろう。

うつけか傾き者が、バンクファッションで町を徘徊していた信長。髪型、服装など、すべてが普通ではなかった信長。礼と格式を重んずる武家、しかも那古野城主としては許しがたい風体であった。

万松寺で行なわれた父・信秀の葬儀。なぜ信長は、仏前に抹香を投げつけたのか？ 喪主でありながら葬儀に遅れ、抹香を鷲つかみにし仏前に投げつけたという。唯の理解者を失った信長は、やり場のない怒りと悲しみを、このような異常な行動でしか表現する術を知りなかつたのだろう。

ついに親代わりの平手政秀も自刃。その頃、人生の師・沢彦と出会う。政秀の自刃により、信長は生まれ変わる。沢彦に学問を学び、義父・斉藤道三との対面でも輝きを放つ。政秀のため、信長は政秀寺を建立。沢彦和尚が初代住職。

信長が信仰した熱田神宮。竹千代(家康)や源頼朝とも縁が。桶狭間の戦い、長篠の戦いなど、神仏を信じないといわれる信長が熱田神宮には何度も参拝し進。竹千代の幽閉地、源頼朝の生誕地、熱田神宮も近い。

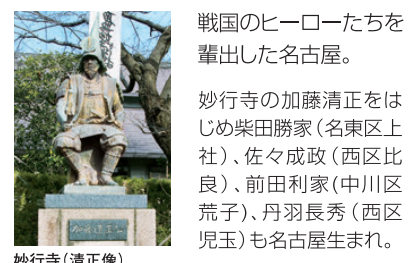
農家の子から神になった豊臣秀吉。

天文6年(1537)、那古野城からほど近い中村(中村区中村公園)で豊臣秀吉が誕生する。幼名・日吉丸。家業は農家とも、キコリともいわれている。文字どおりゼロから天下人となった日本史上屈指の“出世頭”である。

豊国神社、常泉寺、秀吉清正記念館など、中村公園を訪れずに、秀吉は語れない。公園内に生誕の碑、菩提寺、資料館がそろっている。出自が謎に包まれた秀吉だけに、貴重なエリアだ。大鳥居をくぐると秀吉一色。



豊国神社



妙行寺(清正像)

金シャチが輝く名古屋のシンボル・名古屋城。

最高の技能者を集めた、徳川家康の代表作。築城には当時最高の人材が集められた。築城の名手・加藤清正をはじめ、障壁画の狩野派、城大工・中井正清、小堀遠州など、存命中に完成した家康の代表的な城である。

近世城郭御殿の傑作「本丸御殿」。名古屋城築城・名古屋開府400年を記念して復元された「本丸御殿」。戦争で焼けるまでは、京都・二条城の二の丸御殿と並び城郭御殿の最高傑作であった。武家文化の原点が蘇り、平成30年6月に完成公開された。



※織田信長の生誕地は、那古野城説と勝幡城説があり、現在は勝幡城説が有力です。



斉藤道三との対面、吉乃との恋、
沢彦との出会い、桶狭間への出陣…。
尾張で体感できる、信長の青春時代。

尾張

桶狭間の戦い

永禄3年（1560）

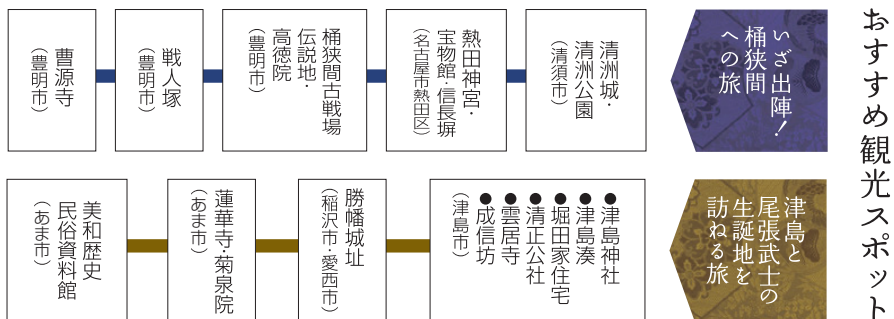
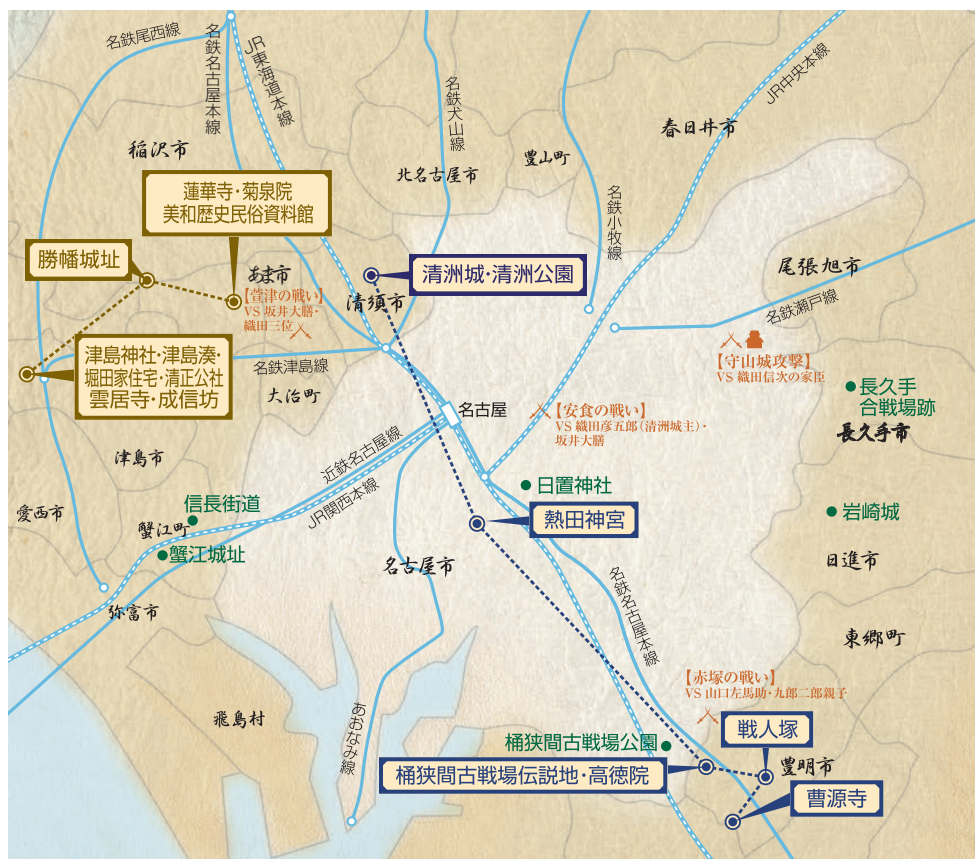
若き信長、東海の覇者・今川義元を討つ。



山種美術館蔵

今や信長は仁王立ちになっている。
「儂はのう、夜が明けりや城を出て
今川の狢めを退治いたすでや。
儂について参る者は
力を尽くし大功をいたせ。
われに十倍の敵と決戦いたすは、
男子の本懐と申すべし」
気鋭の武士たちは、
信長の本心を聞いてふるいたった。
評定の間に、
つわものどもの不敵な笑い声が
湧きおこった。

津本陽「絵物語」天下は夢か
日本経済新聞出版社より



●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

物語を胸に、桶狭間古戦場を歩いてみよう。
散策路を名古屋市中緑区と豊明市が選定。このコースを歩くと、戦場の広さ、地形、状況が把握でき、当時の臨場感を肌で感じる事ができる。

服部小平太の菩提寺、雲居寺。
信長を苦しめた成信坊・祐念。
津島には今川義元に重傷を付けた服部小平太の菩提寺・雲居寺。
一向一揆の立役者、祐念が住職の成信坊がある。



雲居寺

信長の「天下統一」は、清須からはじまり、清須で終った。

清須、小牧、岐阜、安土と、天下に向け着実に歩を進めていった信長だが、いつまでも清須は、特別な存在であった。桶狭間への出陣、尾張統一、美濃攻略、家康との清須同盟…。清須城を離れてからも、嫡男・信忠を城主にすえ、たびたび清須に立ち寄っている。「本能寺の変」後、弟・信雄が城主となり「清須会議」が開かれた。この会議で秀吉が天下を掌握し、信長の時代は終る。



清洲公園周辺には「清洲城主天閣」や「甲冑工房」も。

清洲城には、桶狭間出陣コーナー、公園内には甲冑が試着できる甲冑工房など、信長関連の展示が充実している。

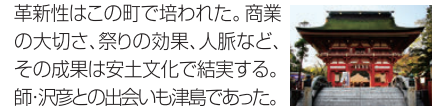


清洲古城跡、総見院など、信長を知るには、ここ清須から。

織田家躍進の拠点、清須。清洲公園には、信長の最も有名な像が建つ。総見院には「焼き兜」も遺されており、当時の繁栄が偲ばれる。

当時、尾張最大の湊町、津島。ここが信長の「町づくり」のルーツ。

新しい経済の仕組み。師・沢彦との出会い。信長に与えた影響は計り知れない。湊町であり、津島神社の門前町である津島。信長の革新性はこの町で培われた。商業の大切さ、祭りの効果、人脈など、その成果は安土文化で結実する。師・沢彦との出会いも津島であった。



堀田道空の庭で、信長が女踊りを舞った。

『信長公記』によれば、信長は津島で盆踊大会を催し、天女の姿で小鼓を打ち、女踊りを舞った、と書かれている。その踊りが阿波踊りのルーツともいわれる。



織田信長の人生と、日本の歴史を変えた「桶狭間の戦い」。

今川義元ほど、誤解されている武将はいない。お幽黒公家くすれというイメージは後の脚色で、実際は海道「のり取り」といわれるほど文武に優れた大名であった。その今川2万5000に、信長は2000の兵で戦いを挑んだ。こうして日本の合戦史に残るドラマが生れる。この戦いは東海の地図を書き換えた。家康は今川から独立し、武田信玄は駿河に進攻し勢力を飛躍的に拡大した。織田信長27歳、尾張小大名の名前が全国にとどく。また信長が戦勝祈願をした日置神社と熱田神社には、それぞれ信長が寄進した松千本と信長塀を見ることが出来る。



豊明市教育委員会蔵



尾張を制する者が天下を制す。
豊臣秀吉もまた、
尾張から、歴史の大舞台へ駆け上がった。



義父・斎藤道三と
 聖徳寺で対面。
 あの美濃の蝟が、
 信長に
 圧倒される。
 守役・平手政秀の死は、
 信長を大きく変えた。
 もはやかつての「うつけ
 ではなく、
 美濃の蝟
 を圧倒す
 るほどの若
 武者」だ。



聖徳寺跡

信長の憩いの場所、
生駒屋敷。
ここで吉乃と恋をし、
秀吉と出会った。
信長が唯一心を許した女性、生駒吉乃。吉乃との間に信忠、信雄、徳姫をもうけている。秀吉との出会いも生駒屋敷だ。この近くには、「武功夜話」が発見された前野家屋敷跡もある。



生駒屋敷跡

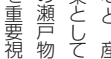
まわで
タイムスリップ。
城下町の面影が、
そのまま残る大山市。
国宝の犬山城天守。茶室
「如庵」をはじめ、城とま
まウィリアム・マサセ
犬山がくくCity・ジ
アム犬山城下町など、町中
が文化財・名所の宝庫だ。



信長がこよなく愛した瀬戸焼。

信長は、瀬戸物の円滑な取引を保障し、新たな諸税の負担を禁止している。また朱印状を発行し、窯屋を目らの保護と統制の下に置くようにするなど、産業として

の瀬戸物を重要視した。



小怪

おすすめ観光スポット

「大山城へ
小牧山城」
信長♥吉乃
の旅

史跡小牧山
小牧山歴史館
れきし(こまき)
(小牧市)

国宝大山城天守
城下町
城とまち
ミュージアム
(犬山市)

有楽苑
(国妻茶手如庵)
(犬山市)

生駒屋敷跡・
久昌寺跡 経塚・
前野家屋敷跡
(江南市)

リモ
●首塚●
●色金山●
歴史公園

リモ
●古戦場公園●
●古戦場公園●
長久手古戦場

「藤が丘」
リニで行く
長久手
古戦場
の旅

陶磁
美術館

「藤が丘駅からバス」
岩崎城

●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

羽柴秀吉48歳、徳川家康43歳。
ポスト信長をめぐる決勝戦。尾張VS三河「小牧・長久手の戦い」。

当初、決戦場として北伊勢が想定されていた。
突然、池田恒興と森長可が犬山城を占拠。
秀吉軍は犬山に進軍し、さらに樂田城に本陣を置いた。
家康軍は、羽黒で森隊をたたき、小牧山城に陣を構えた。
約5kmの距離で、両者のにらみ合いが続く。

信長が築城した小牧山城に、家康は本陣を置いた。



秀吉軍10万は、犬山城から
柴田へ南下。家康軍を揺さぶる。
留守になった岡崎を攻撃
するために、豊臣秀次を総
大将とする池田・森隊が、
密かに三河に向け進軍した。



約6000の池田軍に
果敢に挑んだ岩崎城。
途中、16歳の丹羽氏重が
「見逃すのは末代までの恥」
と、約200名の岩崎城兵で、
池田軍を攻撃、玉砕した。



【長久手の戦い】
豊臣秀次隊が奇襲を受け敗走。池田、森など多くの歴戦の勇士達が討ち死にした。



【蟹江合戦】
滝川一益、九鬼水軍は、いったん家康方の蟹江城を占拠したが、家康勢に蹴散らされた。

家康軍1万6000は、
小牧山城に本陣を構えた。



圧倒的な兵力
の敵軍に対して、
壕をめぐらし、
持久戦をとった。

秀吉(犬山城・楽田城)VS家康(小牧山城)、最初で最後の全面対決。

小牧・長久手の戦い

天正12年（1584年）

尾張



「羽柴筑前は
はや大山城に入つてござりまする。
総人数は十五万とも二十万とも
聞いておりまするに」
家康は床机に腰かけ
注進を聞くと、
陣羽織の肩口が
思わず震えるほどの、
緊張を押さえられなかつた。
ついに大敵が眼前に迫つた。

津本陽『夢のまた夢』角川書店より



小牧・長久手の戦いが
はじまる。

長久手の戦いは、
家康軍の完全勝利。

しかしその後の籠絡で、
秀吉が天下人へ。

秀吉が天下人へ。

絶対君主・信長の死は、反勢力だけでなく、多くの武将たちに大いなる安堵を与えた。もちろん、秀吉や家康も例外ではない。2人は初めて野心を見せる。秀吉は、「本能寺の変」で自刃した信長の嫡男信忠の遺児・三法師を擁立。信長の次男・信雄を後見人とし「ポスト信長の先頭に立つ」。一方家康も、秀吉の策略に気づいた信雄に手をさし伸べ、アンチ秀吉の旗を上げ、天下を狙う。こうして「小牧・長久手の戦い」は始まった。



国宝 犬山城天守

長手手の戦いは局地戦とはいえ、家康軍の圧倒的な勝利で終る。この戦いは、尾張武士と三河武士の戦いでもあり、改めて三河武士の強さを天下にしらした。しかし、ここから秀吉が本領を発揮する。再度、信雄を籠絡し、信雄と和議を結び、合戦の大義名分を失った家康は、振り上げた刀を、鞘に収めるしか術がなかった。



常滑焼・醸造品・海産物を輸送し、
都の文化を持ち帰る。
伊勢、堺、京都と交流していた海の武将たち。

知多

今後、“瀬戸焼”以外の焼き物を禁ずる。

信長、禁窯令を発す

天正2年(1574)

水野監物はこの禁窯令を、常滑の城でうけた。
朱印状をもらった信長の使いから、直々につたえられた。
「とは、わが領内でやきものを焼くなどおこせられるか」
監物の声がふるえた。

「いかにも。諸国からの注文もござろうゆえ、
すぐにはもうされておらぬ。

一定の期限のあと、禁窯令を徹底させよと、
ご朱印状に記されておりましょう」

使者は信長の近侍平千弥伝次。

堺まで出かけ、名物狩りにはたらいだ人物は、

そっけない声でいった。

常滑のやきものを禁ずるのは、

自分に死ねどいつているようなものだ。

やきもので得た常滑水野家の財力が、

信長の天下平定に、どれだけ益してきただろう。

澤田ふじ子「修羅の器」光文社より



家康最大の危機、
「伊賀越え」
ルート。



平安時代末期のかめ
(とこなめ陶の森資料館蔵)

古くから
常滑焼は、全国に
運ばれていた。
千年の歴史を持つ常滑
焼。平安時代には、瓶や
壺が京や奈良で使われ
ていた。

家康の危機を
2度救った、
半田市の常楽寺。



桶狭間の戦いの後、伊賀越えの際、家康が危機の時に常楽寺を訪れている。

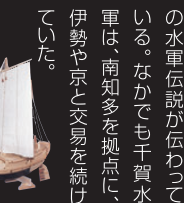
源頼朝の父・義朝、
信長の三男・信孝、
2人の最後の地、
野間大坊。
野間大坊には、源義朝の墓
や清洲会議で柴田勝家に就
いて自害に追
い込まれた信
長の三男・織
田信孝の墓が
祀られている。



漫才のルーツ、
知多市の
「尾張万蔵」。
実は、漫才のルーツは、
ここ知多市八幡といわ
れている。今でも続い
ている日本の伝統芸能だ
ていた。



南知多の海を
制した千賀水軍。
知多半島には、数多く
の水軍伝説が伝わって
いる。なかでも千賀水
軍は、南知多を拠点に、
伊勢や京と交易を続け
ていた。



内海船(江戸期)

おすすめ観光スポット

常滑城と
やきもの
散歩道を
歩く

家康の母・
於大を
訪ねて

やきもの散歩道 (陶磁器会館)	廻船問屋瀧田家 (登窯広場・ 屋上工房館)	常滑城址	INAX ライフミュージアム	とこなめ 陶の森資料館
緒川城址 (於大の生誕地)	郷土資料館 乾坤院 (水野氏の菩提寺 東浦町)	坂部城址 (久松松平発祥地 阿久比町)	常楽寺 (「伊賀越え」 ゆかり半田市)	

●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

家康19歳、母・於大33歳、16年ぶりの再会。 知多を舞台にした、母と子の物語。

元康(家康)は、「桶狭間の戦い」の後に坂部城を訪れている。
すでに於大は、坂部城主・久松俊勝と再婚していた。
久松俊勝は、織田方の武将であった。
元康は、母を訪ねて敵方の城へ来たのだ。
俊勝は、武士の情として、見て見ぬふりをしたという。



椎の木屋敷跡

於大(19歳)は、
椎の木屋敷に住み、
楞嚴寺で仏門に入る。
於大は刈谷城下のこの屋敷
でひっそりと暮らしていた。



緒川城址

水野氏の発祥地、
緒川城。
ここで於大は生れた。
緒川城址と菩提寺・乾坤院
が残る東浦町では、毎年4
月下旬に「於大まつり」を開
催している。



亀城公園(刈谷城址)

松平広忠と結婚し、
竹千代(家康)を生むが、
3年で離縁される。

松平家中の争いの結果、於
大は3歳の竹千代を残し、刈
谷に帰された。

竹千代(6歳)、織田家の人質となる。
於大(20歳)、阿久比城主・久松俊勝と再婚。
天文16年(1547)、竹千代は織田氏の人質となった。
その年、於大は久松俊勝と再婚し、嫡男・康元が誕生。
江戸期、家康の義兄弟として久松松平氏の祖となり
繁栄する。



尾張と三河に挟まれた知多の武将
たちは、常にどちらにつくか選択を
迫られていた。緒川刈谷城主水野忠
政は娘・於大を松平広忠に嫁がせ、姻
戚関係を結び、広忠と於大の子が竹
千代・家康である。しかし、息子・水
野信元は三転して織田方と手を結び、
於大は広忠から離縁される。信元は、
桶狭間の戦いの後、大高城の松平元
康・家康に手を差し伸べ、後に、信長
と家康の「清須同盟」にも尽力し、両
者と懇意な関係を結んだ。
同時に、水野一族は常滑に進出し、
念願の常滑焼を手中に収める。常滑
領の石高は二万二千石だが、実質的に
は十石石にも相当したという。禁窯
令が出された翌年、常滑城主水野監
物が「長篠の戦い」から戻ると、常滑
の窯はことごとく破壊されていたと
いう。水野監物は、その恨みから本
能寺の変の後、明智光秀方につき、
常滑水野家は廃絶に追い込まれた。

尾張と三河の間で
揺れ動く知多の武将たち。
常滑焼を禁じられた
常滑城主・水野監物は、
窮地に追い込まれる。



30年後、江戸入府。
三河武士が、江戸の町をつくった。
西三河では、江戸のルーツが発見できる。

松平氏の発祥地・
豊田市「松平郷」。
徳川300年の栄華が、
こんな小さな山里で生
れたか。そんな感慨がよ
ぎる松平郷。初代親氏
を祀る高月院、松平城址、
松平東照宮など、江戸幕
府が聖地
と崇めた
多くの史
跡が見学
できる。

高月院

松平氏の基盤を
固めた安城市。
松平氏は、
松平郷、岩
津城、安城
城と居城を
移し、安城
の50年間で
勢力を大きく拡大した。
安城市には安祥城址(安
城城跡)や三河向探の
拠点本證寺、石川丈山
ゆかりの丈山文庫丈山
苑がある。



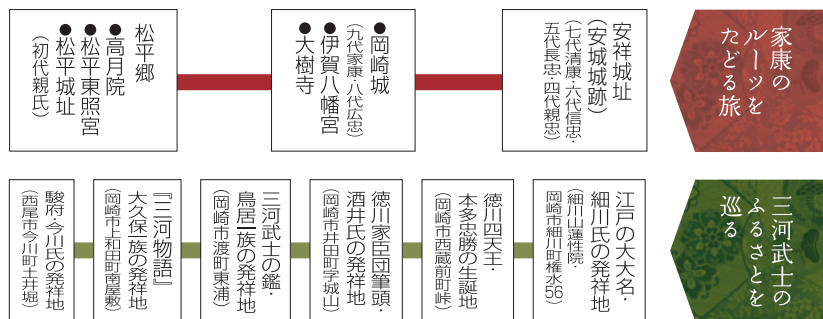
安祥城址(安城城跡)

城下町の
面影が残る、西尾市。
西尾城跡には、本丸丑寅
櫓・二之丸屏風折上塀な
ど城郭の部が復元され、
西尾市歴史公園として整
備されている。家康ゆか
りの養寿寺や足利門の
名族吉良氏の菩提寺であ
る実相寺、吉良氏の分家
にあたる戦
国大名とな
った今川氏の
発祥地も見
逃がせない。



西尾城本丸丑寅櫓

西三河は史跡・名所の宝庫。
西尾市吉良町には吉良氏ゆ
かりの黄金提や華蔵寺。大久
保彦左衛門で知られる幸田
町には彦左公園、深溝松平氏
の本光寺がある。碧南市には
「伊賀越え」で有名な大浜や
「竹千代」命名の寺、称名寺が
ある。高浜市には家康ゆかり
と伝わる「田戸の渡し跡」や
かわら美術館・図書館。知立市
では家康が植えた東海道
の松並木が今も旅人を楽しま
せてくれる。



●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

徳川家康の生誕地、岡崎市。点在する史跡・名所の数に驚かされる。

桶狭間での敗戦後、岡崎へ帰還。
松平元康(家康)は、ようやく人質生活から
解放され、岡崎城主として独立する。
以来、遠江、駿河、信濃、甲斐と領土を拡大。
「本能寺の変」後、豊臣秀吉の天下となり、
江戸への転封を命ぜられる。



家康と三河武士の本城、
岡崎城。

三層5階の天守閣で、2階~3
階は歴史資料館、4階はシア
ター、5階は展望室になってい
る。隣接する「三河武士のやか
た家康館」は家康と三河武士
をする上で必見だ。



徳川將軍家の
菩提寺、大樹寺。

桶狭間の敗戦後、
追っ手から家康を
守った大樹寺。松
平家・徳川將軍家
の菩提寺として歴代將軍の等身大の位牌が安
置されている。多宝塔は国の重要文化財。



家康の勝利の神、
伊賀八幡宮。

松平四代・親忠が、松平氏
の氏神として三重県伊賀
から迎えた。將軍家の崇拜
は篤く家康は、大きな合戦
の際には必ず参拝したとい
われる。

法蔵寺、六所神社、
滝山東照宮など、見どころ満載。

家康の幼少時の遺品が数多く残る法蔵寺。松平氏
の産土神六所神社、三河一向
一揆の際家康が難を逃れた
妙源寺。日本三大東照宮の
一つ滝山東照宮、岡崎は家
康ゆかりの史跡で満載だ。



六所神社

おすすめ観光スポット



高力与左衛門清長



本多作左衛門重次

西三河

13年間の人質生活から、ついに解放。

家康、岡崎帰還

永禄3年(1560)



神原小平太康政

酒井左衛門尉忠次

本多平八朗忠勝



平岩七之助親吉



天野三郎兵衛康景

主従合せて十八騎。
浅井道忠の細心な注意により、
途中無事に大樹寺へたどり着くと、元康は、
「父の墓前へ死にに参った。
門を開かせ候え」と、申し入れた。
むろん死ぬ気で来たのではなかった。
登壇上人は、その裏の意味まで察して、
早々に寺の中へみちびくと、
わざわざ諸僧の前で、元康を訓戒した。
「父の墓前で切腹とは、何という狭いご量見。
そのようなことで祖先の霊に済みましようや」
それは元康に聞かせるよりも、
二十人近い寺僧大衆に元康をかくまい通せと
命じるのであり、その決意を求める言葉であった。
元康にはそれがよくわかった。
わかるだけに神妙にうなずいているところへ、
織田勢とも野武士ともわからぬ一隊が、
元康主従を追いかけて寺の門へ迫って来た。

山岡荘八「徳川家康」講談社より



戦国の雄、今川・武田・松平に挟まれた東三河。幾度となく争奪戦の舞台となり、戦火が消える日はなかった。

東海道、奥三河、渥美への要衝地、豊橋市。豊橋市には浮世絵にも書かれた吉田城や二川宿本陣資料館など街道にまつわる名所が多い。戦国期は戦略的拠点として酒井忠次が吉田城主を勤めた。

山本勘助、今川義元ゆかりの豊川市・牛久保城址。江戸期・長岡藩主を勤めた牧野氏が治めたのが、牛久保城である。付近には山本勘助の墓（永合寺）や今川義元の墓所（大聖寺）がある。今川義元の子・氏真は、亡き父の三回忌を大聖寺でいとなんだという。

渡辺華山が家老を勤めた田原城。江戸期・宇都宮藩や足利藩の藩主であった戸田氏の発祥地が田原城である。田原藩の家老であった渡辺華山は文人としてその名を後世に残した。博物館には作品が展示されている。

徳川の紋所「葵の紋」の発祥地、豊川市伊奈城址。家康の祖父・松平清康は、伊奈城で開かれた祝宴の肴の下に敷かれた水葵を見て「吉例なり」と言ったという。その葵が三つ葉葵の紋になったといわれる。



長篠の戦いと「風は山河より」舞台を歩く

豊橋市

野田城址(菅沼氏)

設楽原決戦戦場(信玄塚・設楽原歴史資料館)

長篠城址(奥平氏)

鳳来寺(於久が子授けを祈願し家康を授つた)

田原城址(奥平氏)

山本勘助と徳川「葵の紋」ゆかりの地を歩く

山本勘助生誕地(豊橋市賀茂町)

牛久保城址・山本勘助の墓(豊川市牛久保)

伊奈城址公園(葵の紋発祥地)

吉田城址・豊橋市美術館(豊橋市)

田原城址・田原市博物館(田原市)

●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

連戦連勝の武田騎馬軍団に、3000挺の鉄砲が火を吹いた。その時、新しい歴史が生れた。

長篠の戦いの舞台になった「設楽原決戦戦場」。武田軍、織田・徳川連合軍、総勢5万人が、長篠城をめぐるこの地で戦った。今も地形は変わっていない。その時の馬防柵が再現され、決戦の臨場感が伝わってくる。

5月21日(現在の7月9日)、早朝から戦いはじまった。信長の必勝プランとは、3重の馬防柵と3000の鉄砲だけではなかった。周囲に空堀や土塁を築き、背後に崖を作り、戦場に壮大な要塞を築くことであった。そこに当時最強といわれた武田軍が突撃し、壊滅的な敗北となった。その死者は「関ヶ原の戦い」以上だったといわれている。



長篠の戦いの遺品を展示する2つの資料館。新城市では、長篠城址史跡保存館と設楽原歴史資料館が、火銃銃など、長篠の戦いにまつわる遺品や文献を展示している。

武田、今川、松平、織田に翻弄された、やまがさんぼうしゅう奥三河の山家三方衆。絶えず大国の脅威にさらされた奥平氏(亀山城)、菅沼氏(長篠城)、菅沼氏(田峯城)は互いに結束し、山家三方衆と呼ばれた。長篠の戦いの際、菅沼氏は武田方につき奥平氏と明暗を分けた。

武田信玄、最後の戦い「野田城」攻め。三ヶヶ原の戦いの後、信玄は2万の大軍で城兵数百名がこもる野田城を攻めた。城主は菅沼定盈。激しい武田軍の攻撃に1ヶ月も耐えたという。その際、信玄は城兵が撃った鉄砲の傷が元で死んだ、という伝説が残る。



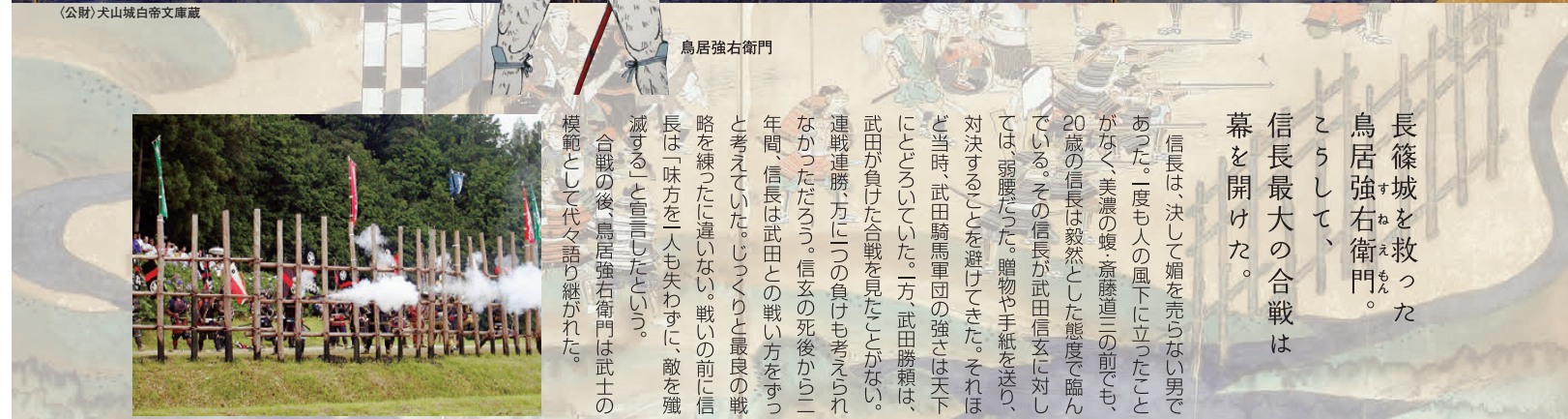
東三河

長篠の戦い

天正3年(1575)

信長・秀吉・家康連合軍、武田軍を破る。

「殿。織田と徳川の援軍は……」と、ここまで叫んだとき、強右衛門は自分でも押えきれない激しいものが胸へつきあがってきた。彼は無我夢中で、こう叫んでしまった。「四万の援軍は、けさ早くに岡崎を発し、いま、ここへ進軍ちゆうでござる。早まって城をあけわたしてはいけませんぞ。いま一日のごしんぼうでござる」それは、強右衛門自身でさえ、思いもかけぬことであった。彼は武田勝頼のいうままに、「援軍は来ませぬ。おあきらめくだな」と、いつもりだったのである。長篠城の中から、「うわあ……」とよめさが鳴りわたった。池波正太郎「炎の武士」角川書店より



長篠城を救った鳥居強右衛門。こうして、信長最大の合戦は幕を開けた。

信長は、決して媚を売らない男であった。一度も人の風下に立つたことがなく、美濃の娘・斎藤道三の前でも、20歳の信長は毅然とした態度で臨んでいる。その信長が武田信玄に対しては、弱腰だった。贈物や手紙を送り、対決することを避けてきた。それほど当時、武田騎馬軍団の強さは天下にとどろいていた。一方、武田勝頼は、武田が負けた合戦を見たことがない。連戦連勝、方につの負けも考えられなかった。信玄の死後から二年間、信長は武田との戦い方をずっと考えていた。じっくりと最良の戦略を練つたに違いない。戦いの前に信長は「味方を二人も失わずに、敵を殲滅する」と宣言したという。合戦の後、鳥居強右衛門は武士の模範として代々語り継がれた。



お市の方 *ochiokata*
(高野山持明院蔵)
信長の妹。浅井長政、柴田勝家に嫁ぎ、2度の落城で一人の夫をなくす。まさに戦国を象徴するような悲劇のヒロイン。遺された3人の娘も、豊臣方、徳川方に別れ、大坂の陣で悲劇を生む。



おね *one*
(名古屋市秀吉清正記念館蔵)
秀吉の正室、後の北政所(高台院)。秀吉の出世を陰で支えた立役者。氣立てが良く、情に厚く、加藤清正や福島正則から母のよう慕われ、信長からも信頼されていた。秀吉の死後、家康からも目置かれていた。



於大 *otai*
家康の母。岡崎城主・松平広忠に嫁ぐが、兄・水野信元が敵対する織田方についたため、3歳の竹千代(家康)を残して離縁される。その16年後、家康と涙の再会をはたす。天下人になった家康は、於大を迎え孝行をつくる。



戦国のヒロイン。

「秀吉とおね」を例外として、この時代の武家の女性は、政略結婚の道具にされるのが常であった。それでも、女性たちは懸命に生き、一族の命運に大きな影響を与えた。女性たちが綴る、戦国時代のもう一つの物語。

濃姫



信長の正室、斎藤道三の娘。美濃と和睦するための政略結婚だったといわれる。結婚したのは間違いないが、その後の史料には登場しない。死去、離縁、刺客説など、さまざまな説がある。

吉乃



信長の側室。生駒屋敷小折城の主・生駒家宗の娘。嫡男・信忠、次男・信雄、徳姫を生み、信長が最も愛した女性だといわれている。秀吉は、吉乃の紹介で信長に仕えたともいう。吉乃が亡くなった時、信長は男泣きした。

千代

山内豊の正室。後の見性院。夫を盛り立てる女性を「豊の妻」とたとえるほど、良妻賢母の模範となった。信長が浅井・朝倉攻めの御馬揃いを催した際、ひそかに蓄えた10両で、夫に名馬を持たせ、信長に認められるきっかけをつつた。



まつ

前田利家の正室、後の芳春院。利家の死後、前田家が家康から謀反の疑いをかけられた際、それを解消するために自らが入質となり、14年間江戸で暮らした。その間、関ヶ原の戦いで西軍についた次男・利政の赦免を幕府に直訴するなど前田家のために尽くした。



旭姫

秀吉の妹。小牧・長久手の戦いの後、秀吉は、家康を自分の勢力下におくために、妹を家康の正室として送り込む。すでに旭姫は44歳、夫もいたが、無理やり離縁させられた。政略結婚とはいえ、あまりにも理不尽な仕打ちだった。



豪華絢爛に独自の美を競った、戦国のファッション。

華麗なる傾奇者。

甲冑は防護服であると同時に、武将たちの死装束でもあった。それだけに、自己の主義主張をこめ、戦場での美を競った。なかでも奇抜な衣装を身にまとう武士は、傾奇者と呼ばれた。この時代、日本人の美意識が大きく育った。

色々威二枚胴具足



豊臣秀吉の甲冑。兜は僧侶がかぶる頭巾と、手にする松子をデザインしている。この甲冑姿を描いたのが8ページの錦絵だ。

馬蘭後立兜



豊臣秀吉の兜。菖蒲の一種である馬蘭の葉をかたどり「日輪・太陽の子」をアピールしている。

唐犬頭巾



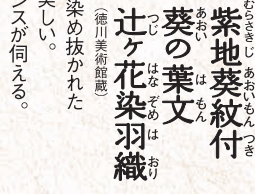
文禄元年(1592)、朝鮮出兵に際して豊臣秀吉が諸将の馬揃えをさせたときに馬上の成瀬正成が着用していたもの。

紫地葵紋付



徳川家康の羽織。紫地に染め抜かれた葵の葉は、色とりどりに美しい。質素ながらデザインのセンスが伺える。

辻ヶ花染羽織



徳川家康の羽織。紫地に染め抜かれた葵の葉は、色とりどりに美しい。質素ながらデザインのセンスが伺える。

孔雀羽根模様陣羽織



孔雀の羽根の模様を一面にあしらっている。孔雀の美しさも、孔雀明王への憧れが込められている。

金陀美具足



徳川家康が「桶狭間の戦い」で着た甲冑。超派手な金箔仕上げ。人質時代の家康の自己主張か。

ビロードマント



秀吉の陣羽織。もとはマントであったものを仕立て直した。襟には龍と唐草、背には胡人・猿・鹿・唐草の模様が入っている。

真珠付純金団扇



秀吉所有の団扇。純金の枠に緋の紗を張り、その上に金糸で樹木と葉を縫いつけ、300個を超える天然真珠を付けている。

鹿角脇立兜



徳川四天王の一人・本多忠勝の兜。鹿の角は、和紙を黒漆で塗り固め、猛将をイメージ。

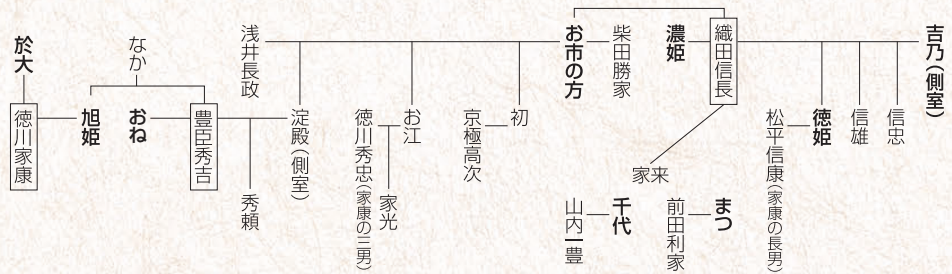
黄金色地葵紋波



家康の小袖。染料の劣化でいたんでいたものを復元。天下人家康にふさわしい豪華な小袖がよみがえった。



- 徳川美術館
名古屋市中村区
052-935-6262
徳川家康愛用の品々や尾張徳川家に伝わる大名道具類を中心に約一万数千点を収蔵。
- 三河武士のやかた家康館
岡崎市
0564-24-2204
徳川家康と三河武士に関する文庫、絵画、武具を展示。兜の試着体験も楽しめる。
- 城とまちミュージアム(大山市文化史料館)
大山市
0568-62-4802
大山城主で代々尾張藩付家老を務めた成瀬家の文庫、屏風絵、武具甲冑を展示。
- 名古屋博物館
名古屋市中村区
052-853-2655
リニューアル工事のため休館中。2026年(令和8年度)プレオープン予定。
- 名古屋市秀吉清正記念館
名古屋市中村区
052-411-0035
豊臣秀吉の生誕地・中村公園内。秀吉や加藤清正に関する資料等を所蔵。
- (仮称)長久手古戦場記念館
長久手市
0561-56-0627
2026年春、市内の史跡巡りの拠点となる「(仮称)長久手古戦場記念館」が古戦場公園内に新規開館予定。
- 清洲甲冑工房
清須市
052-400-2911
市民が参加して、手作りの甲冑を制作している。清洲城では、ここで制作された手作り甲冑の試着体験も楽しめる。



愛知のモノづくりは、信長の天下ーから始まった。



「洛中洛外図屏風」 妙法寺本（妙法寺蔵）

木綿

「木綿」は、799年にインドから三河（西尾市天竹町）に伝わった。と『日本後記』に記されている。その後、江戸期に入り“知多木綿”は全国に広がり、愛知の繊維産業の基盤を築いた。



天竹神社

からくり

「からくりは」、ポルトガルからもたらされた鉄砲と時計から生まれた。織田家ゆかりの津田助左衛門が家康の和時計を修理したことから、尾張藩に仕え、御時計師兼鍛冶頭として尾張・美濃の‘からくり山車’を発展させたといわれている。



瀬戸焼

信長が領土を拡大し上洛する頃、瀬戸の陶工たちは美濃の地に移り、後に黄瀬戸や瀬戸黒など、いわゆる桃山陶を生み出した。



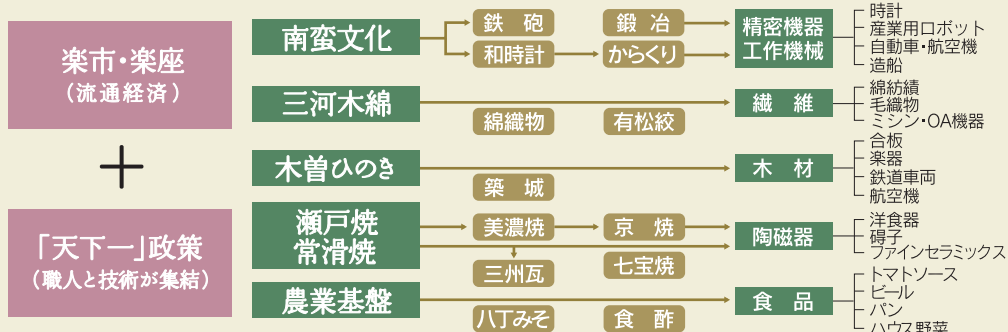
木曾ひのき

「木曾ひのき」は戦国時代から江戸時代にかけて、木曾川を使い尾張に運ばれていた。織田信長は安土城に、徳川家康は名古屋城に、木曾ヒノキを使っている。



日本のモノづくりのルーツをたどると、一人の戦国武将に行き当たる。安土桃山文化を創った織田信長である。信長の革新性は、決して合戦だけではなく文化にも大いに貢献した。たとえば、全国から優れた技能者を集め、技を競わせ、その第一の者に「天下ー」という称号を与えている。出雲阿国（歌舞伎）、千利休（茶の湯）、小堀遠州（陶器）、本因坊算砂（囲碁）、狩野永徳（絵画）、岡部又右衛門（熱田の宮大工）……。以来「天下ー」の命名は、豊臣秀吉、徳川家康へと受け継がれ、多くの職人、技能者が京、近江・美濃、尾張に根をおろし「モノづくりの祖」となっている。中部モノづくりの基盤は「糸（木綿）」、「木（木曾ひのき）」、「土（陶器）」、「からくり（工作機械）」に集約されるが、そこに「天下ー」の技が加わり、モノづくりの土壌を形成したと思われる。

「天下ー」の職人たちー愛知の「モノづくり」 ポルトガルから運ばれた「鉄砲」「時計」「地球儀」。信長が、それを見た瞬間から愛知の「モノづくり」は始まった。



「モノづくり」の国、愛知へ。



戦国時代は、知れば知るほど面白い。

戦国時代は、安土桃山時代とも呼ばれ、日本のルネッサンスともいえる時期だった。ようやく大陸の文化から脱却し、日本独自の華麗なる文化が花開く。信長・秀吉・家康は、文化・芸能においても大きな功績を残した。

信長を起源とする、日本の伝統芸能。

信長は、相撲が大好きだった。



紀州東照宮祭礼図（徳川美術館蔵）

うつけ時代から信長は相撲が大好きだった。各地から力自慢を集め、頻繁に相撲大会を開いている。土俵をまるくしたり、行事を付けたのも信長。差違えた際は、切腹させられた。弓取り式も、信長が勝者に弓を与えたのが起源。信長の道楽であった相撲大会が近代相撲の原型をつくった。

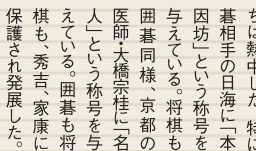
落語のルーツは、武将お抱えの「御伽衆」。



安楽庵策伝（誓願寺蔵）

戦国武将たちは、知識を広げたり、娯楽のために、専属の話し相手「御伽衆」を抱えていた。なかでも織田信長、信忠に仕えた野間藤六は有名で、すでに落語「餞これ」の元になる御伽話を話していた。秀吉も八百人の御伽衆を抱え、その人、美濃の僧侶・安楽庵策伝が落語の初祖といわれる。策伝は、御伽衆が話した笑話を集め「醒睡笑」という本を出版。そこに書かれた笑話、落語の小噺の源流になったといわれる。

信長が手厚く保護した囲碁と将棋。



胡蝶時絵将棋盤（徳川美術館蔵）

戦国時代、兵法の集大成といえる囲碁に、武将たちは熱中した。特に信長の囲碁好きは有名で、本碁相手の日海に「本因坊」という称号を与えている。将棋も囲碁同様、京都の医師・大橋宗桂に名人という称号を与えている。囲碁も将棋も、秀吉・家康に保護され発展した。



有楽斎の茶室・国宝「如庵」

戦国時代、茶の湯と和歌は武将のたしなみといわれた。特に信長は千利休を茶頭とし、名物「茶湯煮」狩りに熱中した。いづつか茶道具は財力と権力の象徴となり、大名物は「一城」よりも価値があったといわれる。そんな武将たちは数寄者「すきしや」と呼ばれ、信長の弟・織田有楽斎、古田織部、小堀遠州など、武将から風雅の世界に走った者もいた。



大阪城天守閣蔵

大坂と京都をつかった秀吉。

天正11年（1583）、秀吉は石山本願寺跡に大坂城を築城。同時に町づくりも行った。実は京都も、秀吉が大規模な区画整理を行い、今の京都の町並みが誕生した。



徳川美術館蔵

しかめっ面の家康。

三方が原の戦いで武田信玄に敗れた家康。家康は、この敗戦を忘れないようにと上の自画像を残し、自身への戒めとした。三方が原の戦いは、家康の生涯唯一の負け戦であった。



仙台市博物館蔵

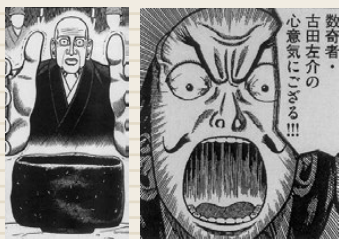
ダースバイダーのモデルは、伊達政宗の兜。

大の侍ファンとして知られるジョージ・ルーカス監督。映画「スターウォーズ」に登場するダースバイダーのコスチュームは伊達政宗の甲冑をモデルにしている。

うつけ流？ 信長の名づけ感覚。

秀吉をハゲネズミ、明智光秀をキンカン頭と呼んでいた信長だが、子供に名づけた幼名も奇想天外。長男信忠：「奇妙」、二男信雄：「茶筌（ちゃせん）」、三男信孝：「三七」、四男秀勝：「次」、五男勝長：「坊」、六男信秀：「大洞」、七男信高：「小洞」、八男信吉：「酌」、九男信貞：「人」、十男信好：「長好」。格式を重んじる時代に、凄い。

戦国トリビア



天下人の遺愛品の数々、徳川美術館。

時の最高の宝物は、時の最高権力者に集まる。こうして信長、秀吉、家康と伝えられた「天下人の遺愛品」は、家康の歿後、息子の義直に与えられ、御三家筆頭、尾張徳川家に伝来した。現在徳川美術館では、家康の遺産「駿府御分物」を中心に、尾張徳川家歴代が集めた大名道具をまとめて収蔵し、その数は一万件にも及ぶ。国宝9件、重要文化財59件など、世界にも類をみない日本唯一の美術館だ。



物語を知れば、戦国時代はもっと面白い。

戦国時代の魅力は武将だけじゃない。古田織部の数寄者人生を描いた「へうげもの」。描写力が光る「信長」。超リアルな合戦で話題の「セコゴ」。



山田孝裕著、講談社刊



山本兼著、文芸春秋刊



宮城谷昌光著、新潮社刊



山本兼著、文芸春秋刊



白天目茶碗

信長が催した茶会で用いられた事例をはじめ、さまざまな茶会記に、その使用が記されている。武野紹鷗から義直に伝来。



竹茶杓銘泪

秀吉に切腹を命ぜられた千利休が、この茶杓を削り、最期の茶会に用い古田織部に与えた。織部から家康、義直へ伝来。



古瀬戸肩衝茶入銘横田

足利義政、義昭、信長を経て秀吉の手に渡り、小牧・長久手の戦いで、吉から利休七哲の一人・古田織部を経て家康の手にわたった。



古芦屋姥口電釜

老女の口のようになっている「姥口」の名称が付いた。秀吉から利休七哲の一人・古田織部を経て家康の手にわたった。



青磁香炉銘千鳥

かの大盗賊・石川五右衛門が秀吉の寝所に忍び込んだ際、千鳥が啼いて報せたという。秀吉から直接、家康へ伝わった。



唐物茶壺銘松花

天下に鳴り響いた名品。安土城の竣工祝いとして信長に贈られ、さらに秀吉、秀次を経て家康のもとに伝えられたという。

一国一城よりも価値があった、大名物茶道具。

徳川美術館蔵

徳川家康 家康は生涯、麦飯と焼き味噌で通した頑固オヤジだった。普段から摂生を心がけ、美食をさけ、暴饮暴食を慎んでいたという。特に八丁味噌で作った焼き味噌は栄養満点。家康の長寿の秘訣は、食生活にあったのだ。	豊臣秀吉 社交的な秀吉は、会食が多く、贅沢三昧な食事を楽しんでいたという。しかし、普段の食事は質素で、貧乏時代に食べた麦飯、だいこん、ごぼうを好んだそうだ。史料では故郷中村から、だいこんとごぼうの献上を命じている。	織田信長 信長といえば、桶狭間の出陣の前に食べた「湯漬け」が有名。「湯漬け」とは、湯をかけた飯のことで、決して粗末な料理ではなかった。信長は塩味のきいた料理を好み、京風の薄味を嫌ったという逸話が残っている。
鷹狩弁当 	大根の煮物・ごぼうの煮しめ・あらめの煮物 	湯漬け・大根の味噌漬け・塩 
焼き味噌 味噌を固め焼いたもの。 	ひょうろうがん 兵糧丸 穀物の粉末と栄養価の高い食物を混ぜて固めたもの。 	ほい 干し飯 ご飯を水で洗い乾燥させたもの。 

戦国グルメ



日夜戦場を駆け回っていた武者たちは、何を食べていたのか？
天下人は、どんな贅沢な料理を食べていたのか？
あまり知られていない戦国武将の食文化を、一挙公開。

日常食

合戦食



写真提供／三河武士のやかた家康館 料理再現／茶屋四郎次郎記念学園

おちつき膳

次郎が残したレシピを参考に、忠実に再現している。家康の「伊賀越え」はこの後に起る。

信長が食べた最後のご馳走。
再現、安土御献立。

戦国史上最も有名な晩餐「安土御献立」(信長の家康饗応膳)。信長が家康をもてなすために明智光秀に命じ、最高の料理を揃えさせたという。その数日後に光秀は信長に反旗を翻し「本能寺の変」が起きるわけだがその契機となったのが、この饗応膳だといわれている。本献立は、その時家康に同行していた御用商人 茶屋四郎次郎が残したレシピを参考に、忠実に再現している。家康の「伊賀越え」はこの後に起る。

今に伝わる、戦国グルメ。

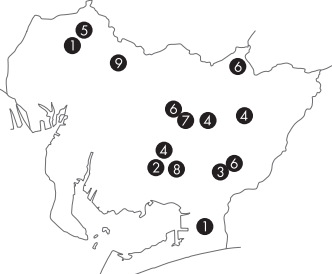
家康の天下取りの糧は
豆味噌(八丁味噌)だった。

その栄養価の高さで戦国武将たちに重宝された豆味噌。織田信長はネギに付けて食べ、徳川家康は、丸めて焼いた焼き味噌を必ず合戦時の常用食に用いたと言われている。その製法は今でも変わらず愛知の食文化にいかされている。

木曾川、矢作川など、
豊富な河川が川魚文化を産んだ。

豊富な河川を持つ愛知県はその恵まれた環境から川魚の食文化を育んできた。木曾川、矢作川、豊川の鮎、奥三河のアゴ、鰯など、戦国武将たちも舌鼓を打ったことだろう。

山間部に脈々と伝わる、愛知の山の幸。
変化に富んだ気候や立地、豊富な水資源。愛知県の山間部には、山の幸をいかした独自の料理が、今も脈々と伝わっている。山菜は非常に食として、城の壁に埋め込まれていたという。

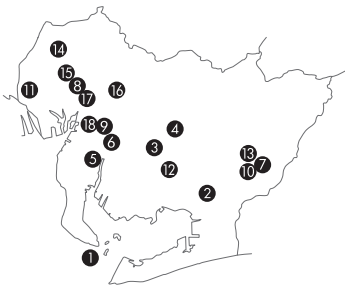


- 1 菜めし田楽(豊橋市・犬山市)
- 2 木の芽田楽(岡崎市)
- 3 五平もち(新城市)
- 4 鮎料理(岡崎市・設楽町・豊田市)
- 5 鮎の魚田(犬山市)
- 6 アマゴ料理(豊田市・新城市)
- 7 地パチ料理(豊田市)
- 8 竹膳料理(岡崎市)
- 9 とろろ飯(瀬戸市)



③ 家康行列 4月上旬 岡崎市 郷土の英雄・徳川家康公を偲び、家康をはじめ、約700名の武者や騎馬が絢爛豪華に練り歩く。	② 若葉祭(うなごうじ祭) 4月上旬 豊川市 牛久保城主(後に長岡藩主) 牧野氏ゆかり。まるで、うなごうじ(うじむし)のように地面にゴロゴロ寝転ぶ奇祭。	① 篠島大名行列 1月3日～4日・南知多町 篠島の神明社・八王子社の両社といったで行なわれる祭りで、両社の神を、大名行列を仕立ててお迎えし、送る。
⑥ 大名行列・山車祭 5月上旬(不定期開催) 刈谷市 江戸時代から続く伝統行事。市指定文化財の山車、奴のねりやが於大も行列に加わり、豪華絢爛な大名行列が壮観。	⑤ 於大まつり 4月中旬 東浦町 徳川家康のご母堂「於大の方」の生誕地。於大ゆかりの“於大公園”を練り歩き、華麗なる時代絵巻をくり広げる。	④ 松平春まつり 4月中旬 豊田市 松平氏の発祥地、豊田市松平郷の祭り。手筒火花が奉納され、古式ゆかしき行列「神輿渡御」が行なわれる。
⑨ 桶狭間古戦場まつり 6月上旬 豊明市 織田信長が今川義元の大军を破った「桶狭間の戦い」。約300名の鎧・兜の武者行列が勇士に練り歩き合戦劇を再現する。	⑧ 太閤まつり 5月の第2土曜日・日曜日 名古屋 郷土の英雄・豊臣秀吉公を偲ぶ豊国神社の祭り。参道にはたくさんの出店が並び、毎年大勢の人でにぎわう。	⑦ 長篠合戦のぼりまつり 5月5日 新城市 大弓大会、合戦行列、武術披露、長篠陣太鼓の実演、火縄銃射撃など、長篠合戦の戦没者の供養を行なう勇壮な祭り。
⑫ 幸田彦左まつり 例年7月の最終土曜日 幸田町 天下のご意見番、大久保彦左衛門は、今の幸田町坂崎の領主でもあった。そんな彦左衛門ゆかりの祭り。	⑪ 尾張津島天王祭 7月第4土曜日とその翌日 華麗で幻想的な津島神社の祭礼。600年近くの伝統を誇り、織田信長も鑑賞したという。国重要無形文化財指定、ユネスコ無形文化財登録。	⑩ 設楽原決戦場まつり 6月上旬 新城市 「設楽原をまもる会」が中心になり戦死者の供養や鉄砲隊の演舞を行なう。「鳥居強右衛門」祭りも開催される。
⑮ 清洲城信長まつり 10月 清須市 手づくり甲冑で練り歩く時代行列や清洲城広場でのイベント、火縄銃の実演など、戦国時代へタイムトリップ。	⑭ 一豊まつり 9月中旬 一宮市 一宮市木曾川町出身の山内一豊ゆかりの祭り。出陣式、戦国時代パレードのほか、市民参加の楽しい催しを開催。	⑬ 火おんどり 8月15日 新城市 長篠の戦死者を弔い、信玄塚では大たいまつに火がつけられ、勇壮に振り回される。400年以上の歴史をもつ祭り。
⑮ サムライ・ニンジャフェスティバル 11月 名古屋 全国の武将隊や忍者隊等による演武に加え、火縄銃の実演、サムライ・ニンジャ体験など、幅広い層が楽しめるイベント。	⑰ 名古屋まつり 10月中旬 名古屋 信長・秀吉・家康が数百人を従えて行進する郷土英雄行列、市指定文化財 山車体験など、幅広い層が楽しめる祭り。	⑯ 警固祭り 10月中旬 長久手市 豪華に飾り付けた馬を鉄砲隊や棒隊が警固し、練り歩きながら火縄銃を発砲し、神社へ奉納する豊年祭。長久手市の無形民俗文化財。

武将の祭りは、日本全国にみられるが、愛知県ほど数が多い地域はない。
三英傑の祭りはもちろん、戦国三大合戦をテーマにした古戦場祭りも見逃せない。
「武将のふるさと」ならではの、勇壮な祭りが堪能できる。



- 1 篠島大名行列
- 2 若葉祭(うなごうじ祭)
- 3 家康行列
- 4 松平春まつり
- 5 於大まつり
- 6 大名行列・山車祭
- 7 長篠合戦のぼりまつり
- 8 太閤祭
- 9 桶狭間古戦場まつり
- 10 設楽原決戦場まつり
- 11 尾張津島天王祭
- 12 幸田彦左まつり
- 13 火おんどり
- 14 一豊まつり
- 15 清洲城
- 16 信長まつり
- 17 名古屋まつり
- 18 サムライ・ニンジャフェスティバル



大阪城天守閣蔵

